



歯科医療最前線に飛沫感染対策を ひまつ (6月4日)

静岡ガス株式会社東部支社は、フェイスシールド60個を駿東歯科医師会に寄付しました。フェイスシールドは、同社のガス管を加工、製作した手作りです。会長の吉田さんは「歯科現場は、フェイスシールドを使った新しい医療体制となってきています。診療時や乳幼児や学校の検診などに使わせていただきます」と感謝を伝えました。

感謝の気持ちを形に (6月12日)

裾野赤十字病院の医師らに対し、裾野高校の生徒が書いた応援メッセージが届けられました。メッセージは、裾野高校で福祉やボランティアの科目を学んでいる生徒22人が休校期間中に書いたものです。受け取った事務部長は「メッセージは院内に掲示します。病院全体でこの局面を乗り越えようと頑張っています。今後も地域医療に貢献します」と感謝を述べました。



感染症に対応した訓練を実施 (6月18日)

市の広域避難地班の職員が、東小学校体育館で避難所開設訓練を行いました。これは新型コロナウイルス感染症が収束していない状況下での、災害発生を想定したものです。感染症対策をした避難所のレイアウトや受け入れ方法の検討を行った後、避難してきた人の受け付けから誘導までの確認と検証を行いました。参加した職員は真剣な面持ちで訓練を行っていました。

寄付金を社会福祉法人に贈呈 (6月23日)

災害ボランティアグループの「虹の架け橋」は、寄付金10万円を「裾野市手をつなぐ育成会」に贈呈しました。会長の所さんが「困っている人を助けたいという思いで、贈呈を決めました」と述べると、理事長の阿部さんは「新型コロナウイルス感染症の影響で、依頼される仕事が減っていました。賃金補填や感染予防品の購入に使います」と感謝を伝えました。





パートナーシップ協定を締結 (6月24日)

第一生命保険株式会社と地方創生に関するパートナーシップ協定の締結式が行われました。締結には当市出身の渡邊会長らが出席し、会長と市長が協定書に署名をしました。会長の渡邊さんは「裾野市はデジタル化とともに、自然と人との調和を目指していて、地方都市のモデルになると考えています。その実現のために役に立てればと思っています」と話しました。

切り絵で図書室の窓を飾ろう (6月25日)

南小学校で切り絵教室が行われ、5年生の児童55人が参加しました。講師に、伊豆市在住の切り絵作家の水口千令さんみづぐちちるを招き、切り絵作家を目指したきっかけや現在の活動について話を聞きました。その後、切り絵ショーを見学したり、切り絵を体験したりしました。出来上がった作品で図書室の窓をカラフルに飾りました。



手作りマスクとタオルを施設に寄贈 (7月2日)

東中学校の1年生が、手作りマスク130枚とタオルを社会福祉協議会を通じて施設に寄贈しました。寄贈されたマスクは、総合的な学習の授業で作られ、1つ1つにメッセージが添えられています。代表の生徒が「気持ちを含めて作りました」と伝えると、社会福祉協議会の事務局長は「マスクは高齢者の施設へ配布し、タオルは災害時などの備えにします」と話していました。

市の農業や特産品について学ぶ (7月3日)

裾野高校で山陽について学ぶ講座が開催されました。この講座を受けたのは2年生で、本年度の修学旅行で広島県と山口県を訪れるにあたり、事前学習として地場農業や特産品について学びました。講座は市職員とJAなんすん職員が講師を務め、市の農業の現状や課題、試験栽培をしているキヌアについて説明をしました。生徒たちは熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

